

第1回池田町義務教育のあり方検討委員会 会議録（概要）

日 時	令和6年9月25日（木） 午後6時～午後7時35分
場 所	池田町役場2階 大会議室
出席委員	池田園小運営協議会代表 梅牧 力 高瀬中運営協議会代表 宮本 和紀 会染小学校 PTA 代表代理 西 絢子 高瀬中学校 PTA 代表 藤井 周二、自治会協議会長 徳嵩 洋行 自治会協議会副会長 片瀬 善昭、池田小学校長 工藤 美恵 会染小学校長 葭本 直樹 高瀬中学校長 原 毅 識見を有する者 村瀬 公胤（web 会議システムによる）、下川 威、丸山 史子 公募による者 佐藤 豊、平林 利香子、丸山 尚子 池田町社会福祉協議会長 中嶋 一光
欠席委員	会染園小運営協議会代表 櫻井 康人 池田小学校 PTA 代表 小林 芳徳、池田保育園保護者代表 矢口 正紘 会染保育園保護者代表 下里 純平
事 務 局	教育長 山崎 晃、学校保育課長 井口 博貴 学校保育課長補佐兼学校保育係長 塩川 亜弥子
書 記	学校保育課長補佐兼学校保育係長
傍 聴	9人

1 開会

学校保育課長

2 教育長あいさつ

各地で秋祭りが行われ収穫の秋を迎えている。昼間は暑い朝晩になると肌寒い季節になった。

全国的に少子化が進んでおり、町も例外ではなく急激に進んでいる。そんな中、町の小中学校のあり方が、将来子ども達にとってどのようになれば良いのか、学校関係者、保護者の皆様、また地域の皆様、それぞれの立場からご意見を賜り、また検討を重ねていきたいと思いこの会を設置した。

長い期間になると思うが、ぜひとも様々なご意見を賜りたいと思っている。

3 委員の委嘱

学校保育課長

4 自己紹介

委員挨拶

5 役員選出

→ 学校保育課長より説明

→ 意見なしのため事務局一任により選出

委員長 梅牧 力 副委員長 宮本 和紀

6 正副会長あいさつ

梅牧委員長

池田町の子ども達が今後どんな教育環境の中で育っていったら良いか、少しでもこの運営に関わらせていただいて、あり方の検討する一助になればと思っている。

県内の勤務した学校の中で数校が再編対象となり、その内1校は他校と合併され閉校となった経験がある。少子化について、これだけ急激に進むとは思っていなかった。これをどう対応するか、手探りになると思うが協力をお願いしたい。

宮本副委員長

私は高瀬中の地域コーディネーターとして活動させていただいてる。皆様がお持ちのご意見を丁寧に吸い上げ、良い方向にまとめあげられるような形ができればと思っている。

委員長を補佐して頑張っていければと思っているので、協力をお願いしたい。

7 諮問

教育長より梅牧委員長へ

8 協議事項

(1) 目的、進め方等について

→ 教育長より説明

(丸山尚子委員) この委員会で検討していく事は、具体的にどのような形にまとめられるのか。

(教育長) 委員会としては、先ほどの諮問を受け、答申という形で方向性を示して頂き、それを受けて町の合議制の執行機関である教育委員会で最終結論を出すことになる。

答申という形でまとめるためにどのように進めていくかは委員会に任されている。その過程では町民、保護者及び子ども達の考えや願いをアンケート等により把握する必要があると考えてる。その願いを受け委員皆様にご検討頂き、ご意見を出して頂きながらまとめていくことになる。

(丸山尚子委員) どのくらいの期間で結論を出せば良いとお考えなのか。

(教育長) 委員会は第8回まで予定しており、令和7年12月までには答申頂きたいと思っている。

(丸山尚子委員) 答申を受けてその後、教育委員会でいつまでに決定するかスケジ

ルールは決められているのか。

(教育長) 答申後最終結論はいつ出すのか、答申の内容によるので言い切れないが、半年ぐらいは検討する必要があると考えている。

(2) 児童生徒数の見込み数について

- 学校保育課長補佐兼学校保育係長より説明
- 質疑なし

(3) 不登校数について

- 学校保育課長補佐兼学校保育係長より説明
- 質疑なし

(4) 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置について

- 教育長より説明
- 質疑なし

(5) 義務教育学校について

- 教育長より説明

(丸山尚子委員) 今後子どもが減っていく中で適正な教育環境を考えた時に、県独自で学級編成人数の基準を少なくしている措置を、今後もっと緩和することはできるのか。

(教育長) 今は何とも言えない。県は国よりも基準を少なくする対応をしてきた。私が校長を務めている時、国が学級編成の基準を 35 人に緩和したので、県は更に少なくして 30 人にすればどうかと提案したが、それは未だに実現されていない。

(徳嵩委員) 県はその基準を条例とか規則とか、何によって定めているのか。基準を変える方法はそれによって異なるので。

(教育長) 何によって決められているのかは、今明確には答えられない。

(丸山尚子委員) 法律や条例等何か文面化したものはあるのか。

(梅牧委員長) 何によって定められているのか、今正確には答えられない。教員の数を増やせばいいと簡単に思うが教員不足でもあり、予算を増やせば配置できることではないので難しい。

(6) 学びの多様化学校について

- 教育長より説明
- 質疑なし

(7) 教育大綱について

→ 教育長より説明

→ 質疑なし

(8) コミュニティスクール概略について

→ 教育長より説明

→ 質疑なし

9 懇談

村瀬委員より一言。

先ほどの教育長の話の中で、少子化、不登校等様々な問題が示されたが、それと同時に町の小中学校保育園で、子ども達主体の授業づくりや、コミュニティ・スクールで地域の方から手厚く学校に関わって頂いている等という沢山の良いことについても紹介があった。また、そのことに地域や保護者の方々が強く頷かれていることが印象的であった。

そのことからこの委員会で行う事は、更に少子化が進んでもこの良いことを十分に保証していくには学校及び教育はどのようなあり方が良いのか、という事を検討していく事なのだと思います。

そのために、町の良さとか強みという点と、現実困っていることや少子化が進む上で今後起きるであろう心配される点の、両面からまず洗い出していく事が必要なのではないか。

各委員より感想発表

(丸山尚子委員) 村瀬委員のお話を聞いて、今後どのように考えていけば良いのか、何か新しい事を考えないといけないかと思っていたがハードルが下がった。現在小中学校保育園で良いことが沢山あって、維持する人が減っても変わらず良い環境であるにはどうしていけば良いのか考えて行けば良い、と視点を示して頂いた。

またそれに不登校の事も加味して考えていきたい。

(平林委員) 会染小学校の保護者として、音楽会、運動会等学校行事で子ども主体に進められている様子を見ても、この小学校に子どもを通わせることが出来て幸せだと思っている。今後子どもの数が減っていくというマイナスの情報もあったが、この学校の良い特色を残して更にバージョンアップさせるようなより良い学校のあり方について、考えていきたい。

(佐藤委員) 現状のわかる丁寧な資料を本日提示頂いた。この現状を良く把握して今後予想される状況に対し、今後どのようなあり方にしていけば良いか検討していく事が大事であると思う。

私事であるが、自分の孫が小学校に在籍しているし、私自分も通っていた小学校が統合により閉校になり、また統合した後の学校にも通ったという経験があるので、その時も関係者がこのように真摯に対応してくれていたんだと感慨深く感じた。

(丸山史子委員) 教員として、閉校する学校の最後の年に勤務した経験がある。少人数の学校であったがしっかり学校運営が出来ていたし、オリンピック選手も誕生した。

そのため学校規模の大小に関わらず、その環境でどのように子どもに力をつけられるか、子どもが大人が支援することが大事であると思う。

(下川委員) 保育園・幼稚園と小学校の接続が大事であると今盛んに言われているが、子どもは年長になるとかなり力を付けてくるので、それを小学校に繋げたいと常々思っている。義務教育のあり方を検討する際に、その前段階の保育園のことも鑑みて検討できれば良い。池田町は接続を進めている歴史があるのでそれができると思う。

また、教員になった頃学級編成の基準が 40 人の時で、45 人のクラスであった。その後、一クラスの人数が減ると教育が行き届くという考えのもと学級編成の基準が緩和されたが、その結果良い面も沢山あったが逆に悪い面もあった。ある程度の規模があった方が子どもの成長にとって良いと考えている。

(原委員) 勤務している中学校生徒の事や、自分が学んだ環境も振り返りながら、しっかり町の子供達の後について考えていきたい。私は小学校 5 年生まで 1 学年 1 クラスの学校で学んだが、6 年生になる際統合して大規模校で学んだ経験があるので。

(葭本委員) 子どもの人数が減ってくると、学校間の統合や再編という話が一般的に良く出てくると思うが、その検討をする前にやらなければならない事があると常々思っている。

まず町の子供達の後どのような環境で学んでいけば良いか皆で検討していく中で、方向性が決まっていけば良いのではないかな。但し木を見て森を見ずという事にならないように気を付けなければならない。

そういう意味で、この委員会の『義務教育のあり方検討委員会』というタイトルはふさわしいと思う。

(工藤委員) 私は、数十年前にこの町の小学校に入学した。その時父はその学校の教員をしていた。そこで学んだこと、培った事が私のベースにあり、とても思い出のある町である。

この町の子供達にとってどんな教育環境になっていけば良いのか、精一杯皆様と一緒に考えていきたい。

(片瀬委員) 5～6 年先の児童生徒数の推計がとても少なくなっていて、大変驚いた。

(徳嵩委員) 『義務教育のあり方』を検討するという命題がとても大きなテーマで、何をどのように検討していくのかわからなかったが、本日現状を少しは把握出来たと思う。

これから、現状からどこが問題なのか把握して探求していくのは相当時間がかかると思う。教育委員会や専門家の方で方向性を示して頂き、それについて意見を述べるようなやり方であれば意見が言いやすい。少し場違いな気がしている。

(藤井委員) PTA 代表という肩書であるが、教育の面では素人であり何を言えば良いかわからないが、素人目線で良ければこれから勉強をしながら検討していきたい。

(西 PTA 代表代理) 子ども二人が小学生である。私自身卒園した会染保育園が統合により無くなることになり、残して欲しかったという気持ちがある。小学校もどうか、気になる場所である。

(宮本委員) 義務教育のあり方を検討するという大きな命題であるが、皆様のご意見

を聞きながら良く検討をし、答申という形にまとめていければ良いと思う。

私は学校園運営委員会委員であるが、本日晒されたような数値は初めて見るものもあり、勉強させて頂いた。学校と地域を繋ぐ中で、自分が持っている必要な情報を会議に提供したり、頂いた情報を地域に戻したりする等の形で活用していければと思う。

(梅牧委員長) 私は、交流センターかえでの建設を検討している際に図書館長を務めていて、このような懇談会に何度も参加させて頂いた。多くの意見があり、予算の制約がある中ではあったが、その意見が活かされて、今多くの方が利用する良い施設になったと感じている。

その事から、多くの方の意見をお聴きすることは大切なのだと学ばせて頂いた。皆さんがいろいろな意見をお持ちであると思うが、それらを出し合う中でまとまっていくというところがある。そのため、こんな事を言っても等と思わずに、本日の資料を見返して頂き、また2回目にご意見を頂きたい。

10 その他

学校保育課長補佐兼学校保育係長より説明

次回の委員会は、令和6年11月28日(木)午後6時予定

11 閉会

宮本副委員長